

## キウイフルーツ雄樹のTバー仕立てによる 管理作業の省力化

平成 26 年にキウイフルーツかいよう病 Psa3 系統が発生したことで輸入花粉の検疫が強化される等、人工受粉用花粉の供給が不安定となっており、花粉の自家採取が見直されています。しかし、花粉採取用の雄樹の管理作業は脚立を用いた高所での作業が多く、労働負担が大きいことが問題となっています。そこで福岡県農林業総合試験場では、キウイフルーツ雄樹にTバー仕立てを適用した省力生産技術を開発したので紹介します。

### ☆技術の概要

1. キウイフルーツ雄樹のTバー仕立てでは主枝の高さ 1.7m、株間 2 m、列間 4 m、樹幅 2 mとします (図 1)。
2. Tバー仕立ては、新梢が下垂するため管理作業に脚立が不要で、花粉 10 g 当たりの夏季管理時間とせん定作業時間は、慣行の平棚仕立てに比べてそれぞれ約 40%、約 50%になります (表 1)。
3. Tバー仕立ての花粉採取量は、定植 3 年目に 1 a 当たり約 70 g となり、慣行の平棚仕立ての約 1.6 倍となります (表 1)。

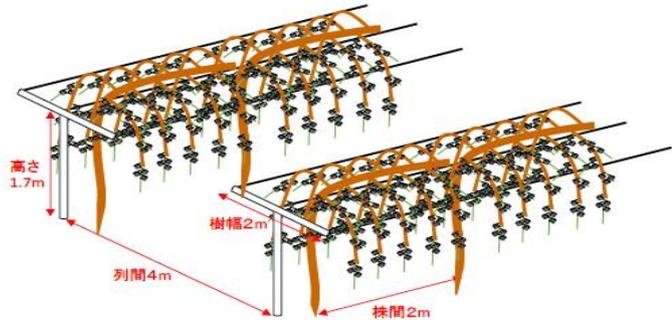


図 1 キウイフルーツTバー仕立ての模式図

表 1 キウイフルーツ雄樹の仕立て法の違いと収量および作業時間 (平成 29、30 年)

仕立て法	1 a 当たり 栽植本数 (本) (A)	花粉 10g 当たり作業時間 (分)			1 a 当たり 換算花粉収量 (g) (B)	雌品種 10 a 当たり 必要本数 (本)
		採花	夏季管理	せん定		
Tバー	12	57 (101)	16 (37)	18 (53)	68 (157)	7
平棚(慣行)	14	56	43	34	43	13
平棚(成木・参考)	9	69	30	51	61	6
有意性	—	n. s.	*	**	**	—

- 注) 1. 供試品種:「トムリ」、平成 30 年時点で定植 3 年目 (樹齢 4 年生)。成木・参考は 2 本主枝仕立て。  
 2. 花粉 10g 当たり作業時間のうち、夏季管理は平成 29 年、採花・せん定は平成 30 年に調査。  
 3. 夏季管理は、6 月下旬における夏季せん定、摘心、誘引時間の合計。  
 4. 採花作業者 (40 代男性、30 代女性、20 代女性)、夏季管理およびせん定作業者 (30 代女性)。  
 5. 括弧内は平棚仕立て (慣行) を 100 としたときの比率%。  
 6. 雌品種 10 a 当たり必要本数は、(10 a 当たり必要花粉量約 40g / (B)) × (A) で算出。

### ☆活用面での留意点

1. キウイフルーツ雄樹の管理作業の省力化が可能な仕立て法として活用できます。
2. 強風対策のため、アンカー等を使用して支柱を補強する必要があります。
3. Tバー仕立て導入にあたっては、開園時に資材費 (10a 当たり 23 万円程度) が必要となります。
4. 詳細については福岡県農林業総合試験場果樹部果樹栽培チーム (092-922-4946) にお問い合わせください。

(農研機構果樹茶業研究部門 研究推進部 果樹連携調整役 大崎 秀樹)